11月号 ステパノだより No.289

『自分軸』を育む

校長　佐藤　紀明

最近、『自分軸』という言葉をいろいろな場面で耳にします。「自分軸をしっかり持った子どもになって欲しい」と、子育ての本にもよく書かれています。日々の生活で、周りの人の気持ちを汲んだり、期待に応えたりすることは大切ですが、そればかりだと、自分が本当にしたいことを見失ってしまいます。

『自分軸』とは、自分がどう生きたいのか・何を大切にしたいのかといった価値観や展望、その先にある「目的」のことを指す言葉です。

『自分軸』があると、物事に対する自分の意見をはっきりと持つことができ、自分が心から好きだと思えるものを大事にできます。つまり、『自分軸』を持っていると、人に流されずに自分の価値基準で物事を判断できます。

私達、大人も『自分軸』をしっかり持っていないと、自分の考えなしに、様々な所から「教育論」を持ち出して、迷いが深まります。

古代中国の大古典の〈四書〉の一つである〈論語〉に「和して同ぜず」という言葉があります。この「和」とは、『自分軸』を持った上で周囲と「協調」できることを意味し、「同」とは『自分軸』がなく、ただ、他人と同じように振舞うだけのことです。協調するとしても、『自分軸』を持った上で他人と意見を調整し、全て相手に委ねてしまわないということです。

『自分軸』に対して『他人軸』があります。『他人軸』とは、周囲の人がどうしたいか・どう考えるかを基準に判断・行動することを指す言葉です。私達は家族や友人・同僚など、様々な人達との関わりの中で生きています。そのため意識していなくても、周囲の「価値観」に影響を受けたり、他の人からの「見え方」を気にして生活していることがあります。

『他人軸』を中心に生きる人達は、自分の意見や感情よりも、他の誰かの「価値観」を反映した選択や行動をしがちになります。

『自分軸』が自分自身の価値観やビジョンを大切にすることなら、それは「我が儘」や「自己中心」なのではと思うかも知れません。しかし、『自分軸』があるということは、自分の「心の声」を大事にするということであり、他人のことを考えずに自分の都合や立場のみを大事にすることとは異なります。また逆に『他人軸』は、必ずしも周りを大事にできるという訳でもないです。むしろ、周囲の目や意見を気にしすぎるがゆえに、その価値観を押し付けたり攻撃したりと、『他人軸』の強い人が「自己中心的」な言動をしてしまうことも起こり得ます。つまり、「我が儘」や「自己中心」というのは、周りの人との関わり方の中で生まれるもので、自分の価値観を大切にするかどうかで決まるものではないのです。

『自分軸』を持っていると意思決定を人に委ねず自分で判断・決定できるので、行動の結果に満足しやすく、「幸福感」に繋がります。

幸福度に関する研究の中では、自分で自分の人生を意思決定することと幸福度には関連があると考えられることが多く、国連が実施する世界幸福度報告の中でも「自己決定感」は一つの測定指標に採用されています。

自分の意思で物事を決定すると、目標達成に向けて責任感を持って努力できたり、自分で勝ち取った成果を心から喜べたりします。

つまり、幸福であるためには『自分軸』を持ち、物事を自分の「意思」で決定することができることが、重要であると言えます。

『自分軸』がある人は、やりたいことやありたい姿を明確に持っていて、常にそれを意識して行動しています。つまり、『自分軸』がある人は、日々の生活で理想の実現に向けた行動が増えるため、そうではない人に比べて「夢」や「目標」を実現しやすいのです。

私は教育の目的は、自立と協調を併せ持つ人間を育てることだと思います。人が生きていく間にはいくつかの判断をしますが、それを他の人に依存してしまうと、責任転嫁や、納得できない思いが募って、不平不満が多くなります。そうならずに自分で立つためには自らを知る必要があり、それには自分の長所が役割を果たすと思うのです。ですから短所を指摘するのではなく、長所を伸ばすことが教育の目標で、学園では大切に考えています。

学園では、一人ひとりのもつ長所・良さを伸ばして共感し、選択肢を示してあげることで『自分軸』を育んでいきたいと思います。

～今年度着任した先生による座談会～

小学校１年　担任　近藤　穂佳　教諭
小学校２年　担任　河野　達　教諭
中学校１年　担任　松澤　玲奈　教諭

司会―本日は、今年度新たにステパノ学園に着任された先生方にお集まり頂きました。はじめに、ステパノで就任することになった経緯や、最初の印象などを伺えますか。

近藤―私は教育実習の面談で来たのが初めてで、とにかく木の香りが良い、すてきな校舎だったことが印象的でした。

松澤―私も同じです。ドアを開けた瞬間にふわっと木のいい香りがして、いい意味で「学校らしくない」という印象でした。

河野―ぼくは児童も先生方も含めて、みんなすごく笑顔が多い学校だなという印象でした。

司会―ありがとうございます。半年ほど働いてみて一番心に残ったことは何ですか。

松澤―私は昼休みに中学校の中庭で遊んでいるあの空間が好きなんです。学年が混ざって遊んでいて、そこに教員も入って、他愛ない話ができる感じがあって、すてきだなと思っています。

河野―中学生がとてもよく小学生の面倒を見てくれる印象があって、例えば遠足などで帰ってくると、自然と「おかえりなさい」「どうだった？」と関わってくれることがすてきだなと感じています。

近藤―遠足やキャンプで、複数学年で関わってできる行事があることが印象的で、上の学年の子が下の学年の子のお世話をする機会になることがいいなと感じています。

司会―ステパノの子どもたちは魅力的で、先生方はその魅力に引き込まれているなと思っています。その中で子どもたちとの良い関わりができる距離感があることがステパノの魅力の一つだと私は感じています。全員の顔がわかる、学年問わず指導ができる、関われる学校って少ないと思うんですよね。皆さんはステパノ学園のどんなところが魅力だと思いますか。

松澤―一日を通して全員と話せるってとてもいいことだと思います。40人規模のクラスだとそれができないので、以前の学校では、そこが少し寂しいなと感じていました。

近藤―私は自然豊かなことが魅力に思います。海にも山にもすぐに行ける。生活科などで自然とすぐに触れあえるのがいいなと思っています。その自然豊かな環境の中で、学びになるようなものが身近にたくさんあることが本当にすてきだなと思います。

河野―個に合わせた指導ができるのが良いことだと思っています。それが教育の原点だと思いますが、一般的にそれが実践できるのはなかなか大変なことです。ステパノはそれができるのでいいなと。以前は中学校で勤務していましたが、教員生活の中でいつか小学校も経験してみたいという気持ちからこちらへ着任させていただきました。

司会―ありがとうございます。それでは最後の質問です。先生方は、これからのステパノ学園への目標や夢などがあれば、お聞かせ頂けますか。

松澤―子どもたちには将来生きていく基盤となるようなことをたくさん身に付けてほしいです。そのための手助けをしていきたいなと考えています。幸せに生きていくために、困ったときに役につ能力を身に付けてほしいですね。

近藤―自分の思い通りにいかないときの受け入れ方が苦手な子が多いように感じます。気持ちの切り替えやうまく友達と折り合いをつけることができるようにしてあげたいですね。時間はかかると思いますが。

司会―時間のかかることですが、生徒たちを小学生の頃指導していた先生方が、中学校で活動している姿を見て、「とても成長しましたね。」「立派になりましたね。」と言って頂けることも多いので、そういった姿を目指して教職員みんなでもっともっと協力して指導していきたいですね。

河野―私は、澤田美喜先生が学校を作られた経緯をお伺いして、「ひとりひとりを大切に。全員を見捨てない。」という点を大事にしたいなぁと思っています。そのために我々教職員が一致団結した教育観をもって、10年、20年と継続していければ良いなと思いますね。

司会―大きな学校ではないからこそ、色々なことができると思いますので、自分たちにできることをそれぞれ、できる限り頑張っていければ良いですね。先生方、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

夏休みが明けてすぐにステパノまつりが開催されました。在校生も保護者もお客様もみんなで楽しんだ1日でした。

お父さんとプラレール屋に行きました。とてもすてきなおみせでした。たくさんのプラレールがありました。うんてんもしました。とてもたのしかったです。

小２　Ｔ・Ｓ

ステパノまつりでは、ピンポン玉チャレンジをしました。お客さんがたくさん来て120人をこえました。ランキングもたくさんぬりかえられました。ほかにはサンドイッチマンをきて宣伝をしました。

祭前祭では、５人でお化け屋敷へ行くまえにパンケーキを食べました。そこではチョコ味を食べました。ラーメン屋に行こうとしたけど人が多すぎていけませんでした。下にもどって５年生教室でフランクフルトを食べました。　小６　Ｆ・Ｋ

今日のステパノまつりは納得の行くもので良かったです。去年はやり遂げたように思ってなかったので、良かったと思っています。（実は、去年から実行委員をやりたくて、でも不安と自分が出来るか分からなかったので…。）来年も実行委員をやろうと思っています。

中２　Ｋ・Ｒ

今日はステパノまつり本番でした。朝からドキドキしていました。たくさんのお客さんが来るはずだからです。

準備期間がもう本当にギリギリだったので、担当のお化け屋敷は一時はどうなることかとプレッシャーでした。心配でたまらなかったけれど、結果は大成功しました。

みんな自分の演技や役目を真剣にやることができました。お客さんには怖くて楽しい思いをきっとしてもらえたでしょう。

僕は、お化け屋敷担当３年目でした。今まで遊園地のお化け屋敷へ勉強のために行ったり、色々な高校の文化祭へ行ったときは、お化け屋敷があれば必ず入るようにしていました。それらで学んだことを今回のお化け屋敷に取り入れたり、自分のできる限りのことをやり切りました。

協力してひとつのものを作るって、本当にやりがいがありました。

ステパノまつりでのこの経験、絶対に忘れません！！

中３　Ｓ・Ｈ

秋晴れの中、運動会が行われました。小学生も中学生も持っている力を出し切った素晴らしい運動会になりました。

先生あのね。うんどうかいはとてもたのしかったです。かいかいのことばは、きんちょうしたけどみんなといっしょにがんばりました。とくにだんすがたのしくて、いまもいえでおどっています。またしょうがっこうでもおどりたいです。　小１　Ｓ・Ｒ

土曜日グラウンドでときめきダイアリーをおどりました。大玉ころがしはまけちゃったけどたのしかったです。せんばつリレーも白にぬかされなかったです。　小３　Ｋ・Ｙ

今日は運動会でした。私はダンスとリレーが楽しかったです。ダンスはたくさん練習したとおりできました。ジャンプするところが楽しいです。リレーは青組が一番になってうれしかったです。　小４　Ｎ・Ｈ

運動会ではダンスをおどりました。ダンスはすごくきんちょうしました。衣しょうを着ておどりました。やめた先生も来てくれてうれしかったです。来年は競技に全部でられるといいです。　小５　Ｕ・Ａ

「風のように走る」

運動会当日の朝、僕はとても緊張していました。この日のために練習してきたのだから、あとは全力を出すだけ。そう自分に言い聞かせ、僕は学校に向かいました。

学校に着き、必要なことを済ませて、ついに本番を迎えました。

小学生の競技は、普段以上に一生懸命頑張る姿が印象的でした。

中学生の徒競走では、自分が最初のカーブで転ばないか心配でしたが、無事に走り切れてホッとしました。中二、三年の先輩方は風のように走っていて僕もあのように速く走れるように努力したいと思いました。

応援合戦では、今までしてきた練習を思い出し、全力で堂々とやり切ることが出来ました。結果は赤組が勝ちましたが、白組も赤組に引けを取らない良い闘いでした。

最終結果は赤組が勝利しましたが、赤組も白組も目標を持って一体となるものはやはり良いものだと思いました。

先輩や後輩、クラスメートとの絆を深めることができ、みんなが一生懸命に頑張る姿を見て、勝ち負けも大切ですが、一緒に楽しむことが大事だと改めて感じました。

中１　Ｓ・Ｈ

「悔しい思い」

中２　Ｈ・Ｒ

今年の運動会で私が一番印象に残ったことは、演技です。一番最初に練習を始めた頃はほとんど振付も覚えられなかったけど、練習を積み重ねた結果、本番も楽しく踊れました。次は応援合戦の時、声を頑張って出したけど審査発表の時は悔しくて、でも自分の組も赤組も良く出来たんじゃないかと今でも思います。でも一番悔しさが残っています。

最後の得点発表の時、私は悔しくて涙が出そうになりました。

エール交換の時、団長さんがリーダーシップを取っていて、すごいなと思いました。大変そうでしたが、すごく尊敬しています。十字綱引きの時、作戦を立て、勝てたのは中３のおかげです。これを私たちが引き継ぎ守らないと、と思いました

たくさん悔しい思いもあったけど、気持ち良く運動会を終えることができて良かったです。これからの行事にも生したいなと思う一日でした。勝ち負けはあるけど、来年は最後なので、本気で一生懸命やり切るのと、団長も一応目標なので頑張ります。

「元気・やる気・本気」

中３　Ｎ・Ｏ

十月十二日、今日が中学最後の運動会だ。

ラジオ体操を終えて、自分が最初に出場する種目であるエール交換の時間になる。自分はその時とても不安だった。なぜなら、エール交換の練習が一週間程度しかできていなかったからだ。そんな状況の中でもミスなく全力でやりきれてとても安心した。

昼食後、運動会の後半が始まった。急いで応援団長の服に着替え、最初の陣形を組んで始まりの合図を待った。Ｓの太鼓の音が鳴り響いた。応援合戦開始の合図だ。全員で**「オォー」**と気合を入れ、観客席前に移動し、審査の人々に「よろしくお願いします」と礼をした。全員の声がピタリと揃い、そしてトラックの中心で円陣を組み、**「限界超えて舞い上がれ白組！」「オォー」**ともう一段階ボルテージを上げ全力をぶつけ合った。一番心配していた三・三・七拍子も上手くいき、「ありがとうございました」と礼をした。そしてついに審査の時だ。その時は期待と緊張で時間がとてもゆっくり進んでいる様に錯覚する。先生の合図に合わせて、審査員６名が札を挙げた。結果は１対５で受け入れたくは無いが敗北だった。一週間勉強する間も惜しんで、みんなと共に頑張って練習してきたので胸が詰まった。ものすごく悔しかった。残念だった。けれどそれに加えて赤組団長を尊敬した。ふざけてばかりの人だけれど、人をまとめるのは人一倍上手だと思った。

最後の種目は、児童・生徒全員で行う紅白対抗リレーだ。自分は白チームのアンカーとして走った。小一のリレーは見てて癒されるような物だったけれど、学年が上がるにつれて速度も上がり、同じ競技とは思えない程に白熱していく。そしてついに自分の走順が回って来た。すぐ後方には赤チームが来ていた。前走者を信じて全力で走り出す。つながるバトン。後ろから聞こえる赤組団長の足音。観客席からの応援。仲間からの期待。全てを感じながら無我夢中に風を切って走る。その勢いのままゴールテープを思いっきり切った。結果は四組の中で三番目だった。けれどもレースの内容は百点満点だったと思った。白チーム全員でバトンをつないだ結果が最後に生きたので、一人ひとりが全力で取り組むことはとても大切だと実感した。

全ての競技を終えて、赤白両チームの得点発表があった。結果は、約十点差で赤組の勝利。心の中で「応援合戦で勝ってればなぁ」と思いながらも、十字綱引きとリレー以外では結果だけに焦点を当てるのは良くないが、全力をぶつけた結果なので負けてはいるけれど不思議と満足していた。

「結果良ければ全て良し」という言葉があるけれども、今日に関しては物事の結果よりもそれを全力で取り組んだという行程に本当の価値があるということを実感した。二週間に満たない短い期間だったけれども、白組団長としていつもは消極的だった「運動会」という行事を全力で積極的に取り組んだ。この経験を通して、避けがちになってしまっていることも、一歩踏み出して積極的に取り組んでみると案外楽しいこともあるということに気付くことができた。

そしてこの一日、自分は聖ステパノ学園の運動会のスローガンである「元気」「やる気」「本気」を達成できたと思う。

【編集後記】

大きな行事から子どもたちの成長が感じられた期間でした。行事で学び取ったことを日常の生活などに生かすことができるよう、職員一同サポートしていきたいと思います。（よ）

発行者　聖ステパノ学園小学校・中学校
校長　佐藤　紀明
ステパノだより編集委員会
〒255-0003　神奈川県中郡大磯町大磯８６８
ＴＥＬ　０４６３-６１-１２９８
ＦＡＸ　０４６３-６１-９７３９
http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二四年十一月一日（金）発行第289号